

広島で田村副委員長が訴え 「今度ばかりは共産党」。広げに広げ、5人全員を国会に

日本共産党広島県委員会は14日、田村智子副委員長・参院議員を迎えて広島市本通りで街頭演説会を開催しました。

田村智子副委員長・参院議員は米軍との核兵器の共有を狙う議論や「政治とカネ」の問題に最も厳しく対決しているのが共産党だとし、参院選に向け、「『今度ばかりは共産党』。この声を広げに広げ、5人の比例予定候補全員を国会に押し上げてほしい」と呼びかけました。(写真左、田村副委員長の右が中村たかえ選挙区予定候補、左は大平よしのぶ元衆議院議員)



にひそうへい参院比例予定候補のビデオメッセージが商店街入り口の大型ビジョンに映され「憲法9条を生かし、歴史の事実と国際法にもとづいて平和をつくる一番の力が共産党の躍進です」と訴え。中村たかえ参院選挙区予定候補は「ヒロシマの心を国会に、世界に届ける」と呼びかけました。(写真右)

5・2 中国ブロック決起集会で広島市議団・中原ひろみ団長の決意表明

「命を守る」命題に答えをもつ日本共産党の誇りにかけて

5・2 中国ブロック学習決起集会での中原市議団長の発言を紹介します。5月9日の都道府県委員長会議での小池晃書記局長の「まとめ」でも紹介されています。現局面で求められている指導と活動に大いに参考になると思います。

.....



広島市議会議員の中原ひろみです。

ロシアのウクライナへの軍事侵略で、有権者のなかに「ロシアは共産党だから」などの声が出ていることが支部長会議でも報告され、活動の足が止まりかねない状況がありました。そうしたなか開かれた都道府県委員長会議を受けて、胸に落ちたことは、受動的な活動では、「情勢に飲み込まれる」が、攻勢的に活動すれば、参議院選挙で勝利できるということです。では、攻勢的に活動するとはどうするのか。

今こそ、日本共産党の本当の姿を知ってもらう絶好のチャンスにしていくことなのだと感じています。

無法な侵略戦争を続けるロシアとウクライナの惨劇の実態を見て、多くの国民が悲しみと苦しみ、大きな危機感と不安を感じています。この思いや感情は、人間の心を持っていれば当然のことです。多くの国民が、どうすればこの戦争を一日も早く終わらせることが

できるのか。日本も含め戦争のない社会、世界を願っていることは間違いありません。「命を粗末にすることへの怒り」「命を大事にする社会」への要求が、これまで以上に大きくなっています。

まさに今、国民の大きな問いかけとなっている「戦争の危険からどうやったら抜け出せるか」について、その回答を持っているのは、100年の党の歴史で反戦平和を貫き、憲法9条を生かした外交を、世界に広げ、軍事同盟でなく話し合いで紛争を戦争にしない世界をつくることを正面から語れる日本共産党だけである。ここに確信をもつことだとか重要だと感じています。

日本共産党への誤解を解き、真実を知ってもらうには、まず党自身が学ばなければなりません。

これまで選挙の対話では、党の歴史や綱領、未来社会について語る必要性はあまり多くなかったと感じますが、今度の参議院選挙はそこを語らなければなりません。

早速、南区では、支部長会議や区委員会で、一定の時間を学びの時間として確保する努力が意識的にされるようになりました。志位委員長の「新・綱領教室」のなかから「自衛隊問題の段階的解決」に関する部分の読み合わせ、参議院選挙区予定候補者会議での発言、学生オンラインゼミなどを学んでいます。共産党員のすばらしさは、学んで真実が分かると、元気になって行動できるということです。ある支部長は「もやもやが晴れた」といい、元気に活動を開始しています。

訪問活動や電話での支持拡大では、まず、ロシアの軍事侵略に対する怒りを共有します。そして、軍事対軍事では平和はつukれないこと、日本共産党が先の大戦で命がけて反戦平和をつらぬいた唯一の政党であることを語ります。そして、憲法9条を生かした外交力こそ持続可能な社会を実現できる道ではないかと相手の考えを聞きます。日本共産党が目指す社会も語ります。綱領を学びながら支持拡大することが不可欠で、過去のどの国政選挙とも質的に違うと感じます。

対話のなかで、命がけて戦争に反対した日本共産党のブランドを今こそ生かしてほしいとの激励もうけました。

南区では、4月は、8割の支部が行動し、7割の支部で成果を出すことができ、久々の二けた拡大になりました。初めての読者も増えています。

「命を守る」命題に答えをもつ日本共産党の誇りをかけた選挙として挑みたいと思います。